



車内の金城学院大学

122限目

「現代社会問題」

「自分で決める」ことを支援する？」

〔意思決定支援〕

私たちは様々なことを自分で決めて生活していますが、認知症の人は「自分で決める」こと自体に支援が必要な場合があります。これを「意思決定支援」と呼び、2018年に厚生労働省によって認知症の人の意思決定支援ガイドラインが発表されました。これは、認知症になっても自分で意思決定をしながら尊厳を持って暮らしていくことを重視しており、そのために必要な支援のあり方が示されています。例えば、必要な情報を本人の認知能力に合わせ工夫して提供する等の「意思形成支援」。身振りや手振り、表情の変化も意思表示のひとつとして読み取る努力を行う等の「意思表示支援」があります。厚生労働省によると、2025年には65歳以上の5人に1人、約700万人が認知症高齢者であると推計されています。このような社会をより豊かなものにするためには、認知症の人の意思が尊重され、自分らしく暮らせる社会を共にすることが大切なのです。

社会の問題を見つめ、誰もが生きやすい社会をつくる。それが人間科学部 コミュニティ福祉学科。

 130

Dignity & Humanity
KINJOGAKUIN ANNIVERSARY 2019

強く、優しく。



金城学院大学